

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2011. 7. 19)

-2011年4～6月期実績と2011年7～9月期及び2011年10～12月期予想-

京 都 商 工 会 議 所
担当：中小企業経営相談センター
電話 (075) 2 1 2-6 4 6 7

国内景気が大幅悪化、中小企業を中心に厳しい業況続く ～東日本大震災が景況感に大きく影響～

概 要

今期、東日本大震災の発生を受けて、国内景気動向は大幅に下降、自社業況も食料品卸、小売業を除き全ての業種で悪化し、ハイテクや輸出関連の製造業など大企業を中心とした回復への期待感から一転、大きく減速した。受注・売上げ不振に加え、原材料価格の高騰、製・商品サービスの価格安が重なって、企業収益は大きく悪化しており、特に影響を受けやすい中小企業で深刻化している。今後年末需要が見込まれる10～12期には多くの業種で回復が予測されているものの、電力需給や雇用環境の悪化など懸念材料もあり、予断を許さない状況である。

(注) 5月下旬から6月上旬にかけ同調査を実施し、602社中495社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業)。また4～6月期のBSI値は、2011年1～3月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

I 国内景気動向

4～6月期のBSI値は、▲30.6(前期実績▲3.9)と大幅に下降し、極めて厳しい景況感となった。今後の7～9月期は▲14.2と下降傾向を弱め、続く10～12月期は5.2と上向き見通しとなっている。

II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 4～6月期のBSI値は、▲15.9(前期実績▲9.3)と大幅に下降した。今後の7～9月期は▲9.8とマイナス幅は縮小するものの引き続き下降傾向で推移し、続く10～12月期は7.4と上昇に向かうものと見られている。

※自社業況(総合判断)は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

- 1. 生産・売上高、工事施工高** 4～6月期は、BSI値▲15.9(前期実績▲10.1)と大幅に下降した。今後の見通しについて規模別に見ると、7～9月期にかけて大企業(2.7)では若干の増加を見通すものの、中小企業(▲14.2)では減少を続け、10～12月期では、大企業(14.7)、中小企業(4.4)と規模間で差が見られる。
- 2. 製・商品・サービス・請負価格** 4～6月期のBSI値は、▲4.2(前期実績▲5.7)と下降を続けた。今後の見通しについて業種別に見ると、7～9月期は製造業の化学・ゴムや出版・印刷、卸売業など一部を除く多くの業種で下降し、10～12月期は、木材・木製品製造や機械金属卸、旅館・ホテルなど多くの業種で上昇する見通しとなっている。
- 3. 経 常 利 益** 4～6月期のBSI値は、小売業、不動産業を除く全ての業種で減少し、▲16.9と大幅に減少した。今後の見通しについて規模別にみると、7～9月期は大企業、中小企業とも減少を予想するものの、10～12月期は大企業では増加、中小企業ではほぼ横ばいを予想し、規模間で差が見られる。
- 4. 所定外労働時間** 4～6月期のBSI値は、▲8.5と減少傾向が続いた。今後の見通しについて業種別に見ると、7～9月期は製造業の一般機械、非鉄などでは増加を予想するものの、建設業やサービス業の料理・飲食、旅館・ホテルなどを中心に全体では減少を見通し、続く10～12月期は多くの業種で増加を予想する。
- 5. 製・商品在庫** 4～6月期の製・商品在庫は、「適正」とする企業が72.1%と概ね適正水準で推移したが、一部に過剰感が見られた。業種別に見ると、繊維卸や繊維製造など繊維関係と、製造業の窯業・土石などで過剰感が見られた。今後は、繊維関係の一部でやや過剰感が残るものの、全体としてはやわらぎ、概ね適正水準で推移する見通しとなっており、10～12月期にかけて鉄鋼や非鉄では不足感も見られる。
- 6. 資 金 繰 り** 4～6月期のBSI値は、▲7.1と悪化傾向で推移した。今後の見通しについて規模別にみると、大企業では10～12月期にかけてやや改善を予想するものの、中小企業では悪化への懸念が残ることから改善の足取りは重い。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

「受注・売上げ不振」(64.4%)が前回に続き第1位になった。第2位は同率で「過当競争」と「原材(燃)料高」(28.5%)、第4位に「製・商品(請負)価格安」(25.5%)、第5位に「人件費負担増大」(13.5%)が続いた。「原材(燃)料高」は前回から回答率と順位を上げている。

Ⅳ 雇用人員と設備投資計画(年1回6月時点調査で実施)

■雇用人員

2011年4～6月期の雇用人員は、「増加」13.3%、「減少」19.8%、BSI値▲3.3(前年同期▲3.7)と減少傾向で推移した。

業種別 繊維卸(BSI値▲19.1)、繊維製品製造(▲15.4)、小売業(▲13.1)、建設業(▲12.1)、繊維製造(▲10.6)など多くの業種で減少した。一方、電気機械(5.2)、窯業・土石(4.6)、非鉄(4.6)、精密機械(3.6)、運輸・倉庫業(3.6)など一部の業種では増加した。

規模別 大企業(BSI値▲4.0)、中小企業(▲3.0)とも減少傾向で推移した。

■設備投資計画

2011年度の設備投資計画は「増額」とする企業13.8%、「減額」とする企業19.0%でBSI値は▲2.6(前年度▲3.4)となり、減額傾向で推移した。

業種別 料理・飲食(▲18.2)、その他サービス業(▲11.9)、繊維製造(▲11.1)、小売業(▲9.1)、建設業(▲9.1)などの業種で減額が続く一方、一般機械(13.5)、精密機械(10.8)、食料品卸(6.3)、非鉄(4.8)、電気機械(3.5)などの業種では増額となっている。

規模別 大企業はBSI値▲0.7(前年度2.1)、中小企業は▲3.5(前年度▲5.8)といずれも減額を見込んでいる。

国内景気		実績			予想					
		2011年4～6月期			2011年7～9月期			2011年10～12月期		
		B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降
総計		▲30.6	8.3	69.4	▲14.2	12.2	40.5	5.2	31.9	21.5
規模別	大企業	▲30.1	9.3	69.5	▲5.6	19.2	30.4	11.1	35.6	13.4
	中小企業	▲30.7	8.0	69.4	▲18.0	9.1	45.0	2.7	30.3	25.0
業種別	製造業	▲29.0	9.8	67.8	▲14.2	11.4	39.7	7.7	33.6	18.2
	卸売業	▲32.2	8.5	72.8	▲8.4	18.3	35.0	11.7	43.3	20.0
	小売業	▲21.7	17.4	60.8	▲17.4	13.0	47.8	6.6	30.4	17.3
	建設業	▲36.4	3.0	75.7	▲19.7	6.1	45.5	▲4.6	21.2	30.3
	不動産業	▲28.1	6.3	62.5	▲28.2	6.3	62.6	▲6.3	25.0	37.6
	運輸・倉庫業	▲32.2	7.2	71.5	▲12.5	14.3	39.3	3.6	32.1	25.0
	サービス業	▲34.5	3.9	72.8	▲13.0	13.0	39.0	▲1.3	23.7	26.3

自社業況 (総合判断)		実績			予想					
		2011年4～6月期			2011年7～9月期			2011年10～12月期		
		B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降
総計		▲15.9	16.7	48.5	▲9.8	15.4	34.9	7.4	35.5	20.8
規模別	大企業	▲13.0	20.0	46.0	▲0.4	23.3	24.0	14.5	41.0	12.0
	中小企業	▲17.2	15.3	49.6	▲13.9	11.9	39.7	4.2	33.1	24.7
業種別	製造業	▲17.1	15.7	49.8	▲8.9	16.2	34.0	9.5	38.5	19.5
	卸売業	▲16.7	15.0	48.3	▲5.8	16.7	28.3	10.9	36.7	15.0
	小売業	2.3	31.8	27.3	▲18.2	4.5	40.9	18.3	45.5	9.0
	建設業	▲28.9	3.0	60.7	▲15.2	12.1	42.5	▲12.1	15.2	39.4
	不動産業	0.0	26.7	26.7	▲16.7	13.3	46.7	▲3.3	26.7	33.3
	運輸・倉庫業	▲1.9	25.9	29.6	▲14.8	11.1	40.7	5.6	33.3	22.2
	サービス業	▲18.9	18.2	55.9	▲7.8	18.2	33.8	5.2	32.8	22.4

※ B.S.I.値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) × $\frac{1}{2}$